

# 研究開発課題：行動を誘引するフィードバック

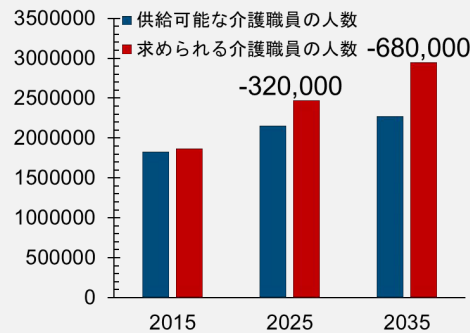
## 高齢者の居宅内事故予防支援

不都合・不適切な事象を回避するための人の行動を喚起するフィードバックモデル

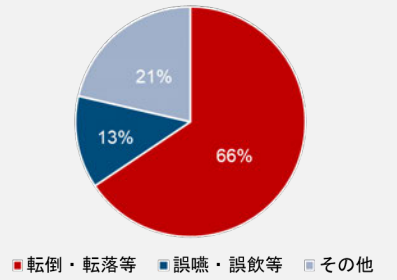
1. リスクに対する主観的な判断
2. 観察可能なシグナルのセンシング
3. 観察可能な回避行動
4. 行動の適切性の評価
5. 評価に基づくサイクルの戻し先の選択
6. サイクルの再構成



介護職員の需要と供給 [1]



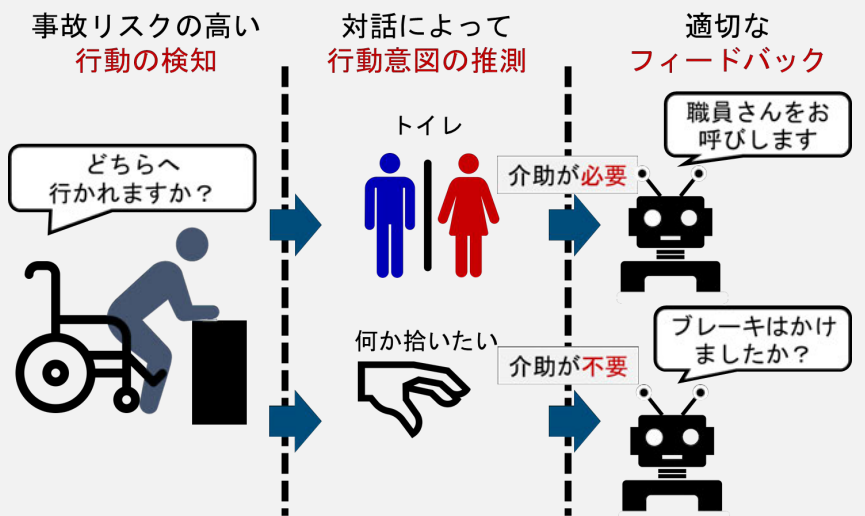
入所サービス全体 事故状況 [2]  
(概ね30日以上入院を伴う事故計276件)



✓ 転倒・転落事故は、**座位姿勢**からの行動によって発生したものが多くを占める  
✓ **できると思って行動してしまう、職員を待っていることができない**利用者が一定数存在し、転倒事故を引き起こしている

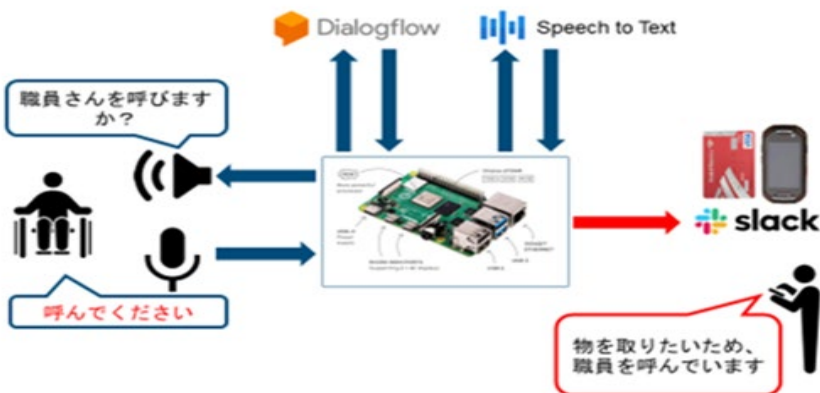
## ハイブリッド介護で事故を減らす

- 意図せず突発的に起こってしまう事故を減らす  
- 予兆を検知して、即座に**職員へ通知**
- 本人が自力で何かをしようとして失敗して起きた事故を減らす  
立ち上がろうとしている場面を検知し、**対話から行動意図**を推測  
- 自力で達成できる → 安全に行えるようアドバイス  
サポートが必要 → **職員へ通知**、到着するまで時間稼ぎをする



## “通心快心”システム

利用者が必要とする時、姿勢の崩れが閾値を超えた時に職員を呼ぶ



某介護老人保健施設におけるユーザーテストに向け“通心快心”を取り付けた車椅子

“通心快心”の構成と動作の流れ

## “通心快心”システムの社会実装に向けて

- 西條研と(株)ハタプロ等と協力のうえ、本技術の社会実装を目指します。
- “通心快心”によるサービスの適応領域を拡大を目指します。

